

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.148

2012/03/20

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

雪解け待ちかね保全作業動き出す



南部湿原脇枯死木伐採(12/03/10)

昨年に引き続き大雪となり、本格的保全作業が遅れ気味である。積雪期は、その時期でないといけない、植林地の高所「枝打ち」や雪害木の処理・楽舎周辺の除雪との繰り返しであった。3月中旬になっても残雪が多く、本格的な雪解けを待っておれない状態となった。残雪の中でも出来るものからと作業を行っている。雪解けとともに観察コースの実態が日々現れ、来訪者が増加するまで



北部湿原沈砂池浚渫(12/03/07)



北部湿原上流部沢浚渫(12/03/19)

に全コースを整備するのは至難の業です。落枝・倒木は毎年のことですが、1998年から99年に整備された木柵は寿命を迎えほぼ全域で補修の効かない状態に朽ちています。全域は無理としても倒壊している部分は早急に撤去しないと危険な状態です。天候次第ですが、報告会・総会の翌25日は、楽舎から湿原までは完全な状態に戻したいものです。多くの会員の参加をお待ちしています。

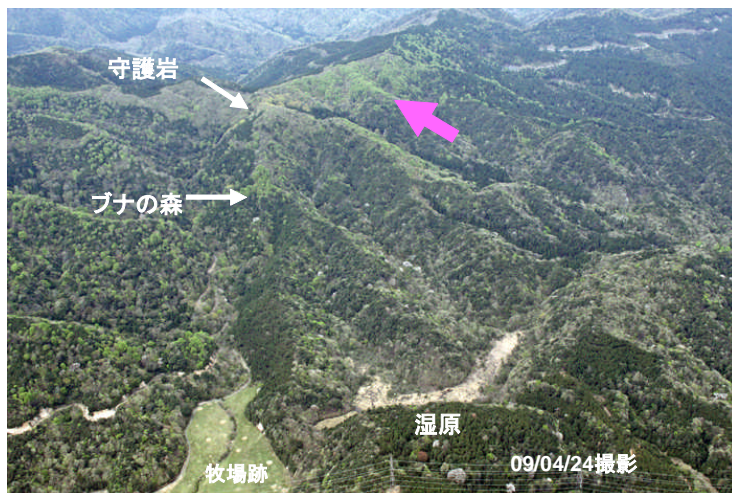
3/25の保全作業は満載



根が起きた樹木(12/03/19)



木柵の腐食倒壊(12/03/19)



「山門水源の森」の範囲でブナが高密度で分布しているのは「ブナの森」から「守護岩」までの尾根の比較的西斜面です。しかし「山門水源の森」の範囲外ではあるが、「守護岩」から少し北側の県境部（上の画像矢印）には、見事なブナの純林が残っています。4月下旬には、地域の植生の学習に出かける計画をしています。残雪のこの時期の「ブナの森」もなかなかのものです。長靴とスパッツ程度でコース巡回は可能です。是非お訪ね下さい。



沢沿い（4月以降「沢道」と呼ぶことになる）は、今バイカオウレンが見頃です。楽舎から湿原まで連続していろいろな背景でバイカオウレンを観ることが出来ます。ゆっくりとカメラを持って出かけて下さい。湿原までで十分堪能できます。ショウジョウバカマやアツミカンアオイも咲き出しましたが、イワナシを含めて見頃は4月初旬です。



多様な生物がいる環境が私たち人間にとってもいい環境であることは言い古された言葉ですが、「山門水源の森」周辺でそのことを実感できる機会が増えています。昨秋の大浦川のビワマスの遡上・産卵、大浦川の東の大川（塩津）で毎年見られる北に渡る前のコハクチョウの群れ。（北へ帰るコハクチョウは、チャンスに恵まれると観察コースの第2分岐の峠から観察できることがあります。）今年は、これに加えてコウノトリが塩津の「道の駅」周辺に3日間飛来しました。近い将来「山門湿原」でもコウノトリが見られるのも全く夢でないかも知れません。田起こしが始まる頃には、塩津にユリカモメの大群が訪れるはずですが、「山門水源の森」も私たちの10年を超える保全活動で、危機的な状況にあった多くの植物の再生が出来てきましたが、食害問題や未だ原因がつかめない事象によって減少している動植物があります。観察と作業の機会を増やし問題が克服できるようにしたいものです。